２０２６年１２月期
第２四半期 決算説明会資料



2026年11月10日
株式会社ニチレイ

代表取締役社長（CEO）
嶋本 和則

みなさん、本日はご参加いただきありがとうございます。
早速ですが、本日発表しました決算説明会資料に沿ってご説明します。

本日お伝えしたいこと

第2四半期実績
国内7-9月(3か月)
海外7-9月(3か月)

・売上高は、海外事業の伸長によりグループ全体で5%増収
・営業利益は、食品事業の価格改定効果の発現・海外の収益改善により
グループ全体で8億円の増益

通期計画
国内4-12月(9か月)
海外1-12月(12か月)

・売上高・営業利益ともに第1四半期に修正した通期計画から変更なし
・**当期純利益は**、政策保有株式の売却を推進し**10億円上方修正**
・システム障害による影響額を更新し、通期計画に織り込み済み
・バランスシートマネジメント強化の一環として**非中核資産の一部の売却を決定**

5つの経営論点

・4象限の成長戦略方針

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

- はじめに、本日お伝えしたいポイントをご説明します。
- まず、第2四半期の実績です。売上高は、主力２事業の海外の伸長によりグループ全体で5%の増収となりました。
- 営業利益は、食品事業における価格改定効果の発現とタイの事業環境改善に加え、低温物流事業におけるM&A効果などにより、全体で8億円の増益となりました。
- 続いて通期計画です。
- 売上高・営業利益ともに、第1四半期決算発表時に修正した計画を据え置きます。
- 一方、当期純利益については、政策保有株式の売却を推進したことなどにより、前回計画から10億円上方修正します。
- システム障害による今期業績への影響については概算額を更新し、業績予想に織り込んでいます。
- また、バランスシートマネジメント強化の一環として、非中核資産の一部について売却していく決定をしました。
- 期末の決算説明会で提示しました新たな経営指針については、5つの経営論点の進捗をご説明します。
- ではまず第2四半期の実績からご説明します。

目次

1. 2026年12月期 第2四半期実績（P.3～6）
2. 2026年12月期 通期計画（P.7～15）
3. 5つの経営論点（P.16～18）
4. Appendix（P.19～28）

注：当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し、一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

1. 2026年12月期 第2四半期実績

連結業績

国内9か月変則決算

●食品事業の改善により第2四半期単独で8億円増益

（単位：億円）

	第２四半期				第２四半期累計			
	実績	前年同期間比 増減	前年同期間比 率	営業利益率	実績	前年同期間比 増減	前年同期間比 率	営業利益率
食品	**1,074**	37	4%		**2,320**	60	3%	
低温物流	**857**	66	8%		**1,935**	219	13%	
不動産	**13**	1	6%		**26**	1	5%	
その他	**9**	△1	△12%		**20**	△4	△17%	
調整額	**△70**	△14	—		**△128**	△17	—	
売上高合計	**1,883**	88	5%		**4,174**	258	7%	
（海外売上高合計）	**538**	92	21%		**1,520**	248	20%	
食品	**51**	13	35%	4.7%	**89**	△12	△12%	3.8%
低温物流	**52**	△0	△0%	6.1%	**104**	0	0%	5.4%
不動産	**5**	1	18%	39.7%	**10**	1	9%	39.8%
その他	**△1**	△1	—	—	**△2**	△2	—	—
調整額	**△8**	△6	—	—	**△18**	△9	—	—
営業利益合計	**100**	8	8%	5.3%	**182**	△22	△11%	4.4%
経常利益	**98**	6	7%		**183**	△23	△11%	
親会社株主に帰属する中間純利益	**66**	△17	△20%		**135**	△17	△11%	

【売上高】
・主力事業の海外事業が**21%**伸長し、
グループ全体で**5%増収**

【営業利益】
・食品事業の価格改定効果の発現や外部環境改善等により全体で **8億円増益**
・構造改革にかかる費用が調整額で発生

【第2四半期純利益】
・システム障害の影響等により、**17億円減益**

為替レート	26/12 2Q（1～9月）	26/3（1～9月）
米ドル／円	158.54	148.23
ユーロ／円	184.12	165.54
バーツ／円	4.89	4.48

※1月～9月までの期中平均で算出
※今期は変則決算期のため、
国内：2026年4月～12月（9か月）、
海外：2026年1月～12月（12か月）を連結対象とする。
参考：2026年3月期 期末決算説明会資料（P7）
https://www.nichirei.co.jp/sites/default/files/inline-images/ir/pdf_file/pres/260512kettsan_3.pdf

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

- 第2四半期単独の売上高は1,883億円となり、5%の増収となりました。
- 主力事業の海外事業が増収を牽引し、海外売上高は538億円、前期比で21%伸長しました。
- 営業利益は、食品事業の価格改定効果の発現などにより8億円の増益となりました。
- 第２四半期の純利益は、システム障害の影響などにより17億円の減益となりました。

食品事業｜実績　国内9か月変則決算

● **第２四半期では、国内での価格改定効果の発現やタイの外部環境の改善により13億円増益**

（単位：億円）

		第２四半期 実績	第２四半期 前年同期間比 増減	第２四半期 前年同期間比 率	第２四半期 営業利益率	第２四半期累計 実績	第２四半期累計 前年同期間比 増減	第２四半期累計 前年同期間比 率	第２四半期累計 営業利益率
食品	売上高合計	1,074	37	4%		2,320	60	3%	
	国内	864	9	1%		1,713	12	1%	
	家庭用冷凍食品	276	△0	△0%		550	2	0%	
	業務用冷凍食品	488	8	2%		968	3	0%	
	調理品	376	29	8%		735	42	6%	
	素材品	112	△21	△16%		234	△39	△14%	
	その他	100	2	2%		194	7	3%	
	海外 ※	338	59	21%		962	124	15%	
	調整額	△128	△31	―		△354	△75	―	
	営業利益合計	51	13	35%	4.7%	89	△12	△12%	3.8%
	国内	33	6	23%	3.8%	49	△6	△11%	2.9%
	海外	20	9	92%	5.8%	41	△4	△9%	4.2%
	調整額	△2	△2	―	―	△1	△2	―	―

※本表の数字は事業内消去前の数字となり消去後の食品事業の海外売上高（P.21）は
（四半期単独）223億円、（累計） 639億円

【国内】

《売上高》

・**家庭用**：価格改定に伴う単価上昇は数量減で相殺され**前期並み**

・**業務用**：大手ユーザー向けチキン加工品の伸長は継続したが、構造改革による素材品の売上減少により**2%増収**

《営業利益》

・価格改定効果の発現や販促費コントロールの徹底により**6億円増益**

【海外】

《売上高》

・北米事業が好調に推移し**21%増収**

《営業利益》

・タイの輸出事業におけるドル安バーツ高や副産物相場下落の状況が緩和し**9億円増益**

増収の内訳	第２四半期 増収率	第２四半期 単価	第２四半期 数量	第２四半期累計 増収率	第２四半期累計 単価	第２四半期累計 数量
家庭用冷凍食品	△0%	9%	△9%	0%	8%	△8%
業務用冷凍食品(調理品)	8%	7%	1%	6%	6%	0%

為替レート	26/12 2Q（1～9月）	26/3（1～9月）
米ドル／円	158.54	148.23
バーツ／円	4.89	4.48

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

- 続いて、食品事業の第２四半期の実績となります。
- 国内では、単価上昇を基調とした価格改定効果が発現し、海外ではタイの為替や副産物相場といった外部環境の改善が見られたことで、13億円の増益となりました。
- まず国内の実績です。
- 家庭用冷凍食品の売上高は276億円で、前期並みとなりました。
- 今年２月は米飯商品、８月にはほぼ全商品を対象にした価格改定を実施し、短期間での改定が続いたことや、生活者の節約志向の高まりなどもあり数量は減少しました。
- 業務用冷凍食品の売上高は488億円で2%の増収となりました。第１四半期のトレンドが継続し、大手ユーザー向けチキン加工品が伸長した一方、水産・畜産などの素材品の構造改革による売上減少が影響しました。
- 営業利益は、第２四半期単独では、価格改定効果の発現や、販促費のコントロールを徹底したことで、33億円、6億円の増益となりました。
- 続いて海外の実績です。
- 売上高は、水産物の販売を中心に北米事業が好調に推移したことで、338億円、21%の増収となりました。
- 営業利益は、タイの輸出事業におけるドル安バーツ高やチキン副産物の販売相場の下落状況が緩和し、20億円、9億円の増益となりました。

低温物流事業｜実績　国内9か月変則決算

● **売上高は海外事業を中心に伸長し増収、営業利益は国内事業でのシステム障害影響を海外でのM&A・新増設伸長分でカバーし全体で前期並みを確保**

（単位：億円）

		第２四半期				第２四半期累計			
		実績	前年同期間比 増減	前年同期間比 率	営業利益率	実績	前年同期間比 増減	前年同期間比 率	営業利益率
低温物流	売上高合計	**857**	66	8%		**1,935**	219	13%	
	国内事業	**529**	19	4%		**1,038**	41	4%	
	保管	**187**	7	4%		**367**	14	4%	
	輸配送	**96**	0	1%		**190**	4	2%	
	リテール	**170**	6	3%		**336**	13	4%	
	3PL	**75**	6	9%		**146**	9	7%	
	海外事業	**315**	71	29%		**879**	201	30%	
	その他・共通	**13**	△23	△65%		**18**	△23	△57%	
	営業利益合計	**52**	△0	△0%	6.1%	**104**	0	0%	5.4%
	国内事業	**46**	△2	△5%	8.6%	**85**	△5	△5%	8.2%
	海外事業	**11**	1	15%	3.4%	**30**	4	15%	3.4%
	その他・共通	**△4**	1	―	―	**△11**	1	―	―

為替レート	26/12 2Q（1~9月）	26/3（1~9月）
ユーロ／円	184.12	165.54
バーツ／円	4.89	4.48

【国内】
《売上高》
・保管・リテール・3PLが着実な需要の取り込みにより堅調に推移し、**4%増収**

《営業利益》
・システム障害影響および電力コスト上昇の影響により**2億円減益**

【海外】
《売上高》
・欧州での通関輸配送事業の伸長や、円安による為替換算影響もあり**29%増収**

《営業利益》
・欧州での通関輸配送事業の伸長に加え、ポーランドやタイで前期に新設した冷蔵倉庫の集荷が進捗したことで**1億円増益**

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

- 続いて、低温物流事業の実績についてご説明します。
- 売上高は海外事業を中心に伸長し８％の増収となりました。営業利益は52億円となり、前期並みを確保しました。増収効果があった一方で、国内におけるシステム障害や電力コスト上昇の影響を受けています。
- 続いて、国内事業の実績です。
- 売上高は529億円となり、4％の増収となりました。保管、リテール、3PLの各事業において需要を着実に取り込み、堅調に推移しました。
- 一方、営業利益は46億円となり2億円の減益となりました。増収効果や適正料金の収受を進めたものの、システム障害による影響に加え、電力コストが上昇したことが主な要因です。
- 続いて海外事業の実績です。
- 売上高は、315億円で29％の増収となりました。欧州における通関・輸配送事業の伸長に加え、円安による為替換算影響が増収に寄与しました。
- 営業利益は、ポーランド及びタイで前期に新設した冷蔵倉庫の集荷が進んだことで、11億円、１億円の増益となりました。

2. 2026年12月期 通期計画

2026年12月期　連結業績予想　国内9か月変則決算

- **売上高および営業利益は、年末の最需要期に向けた施策を進め、通期計画の達成を目指す**
- **当期純利益は、政策保有株式の売却を推進したことで前回計画から10億円上方修正し、214億円を見込む**

（単位：億円）

	通期					
	計画	前年同期間比		前回計画比		営業利益率
		増減	率	前回計画	増減	
食品	**3,501**	88	3%	**3,501**	—	
低温物流	**2,790**	289	12%	**2,790**	—	
不動産	**38**	1	2%	**38**	—	
その他	**39**	△1	△4%	**39**	—	
調整額	**△183**	△16	—	**△183**	—	
売上高合計	**6,185**	360	6%	**6,185**	—	
（海外売上高合計）	**2,049**	322	19%	**2,049**	—	
食品	**145**	△15	△9%	**145**	—	4.1%
低温物流	**166**	6	4%	**166**	—	5.9%
不動産	**15**	1	5%	**15**	—	39.5%
その他	**1**	△3	△73%	**1**	—	2.6%
調整額	**△27**	△13	—	**△27**	—	—
営業利益合計	**300**	△24	△8%	**300**	—	4.9%
経常利益	**309**	△25	△7%	**309**	—	
親会社株主に帰属する当期純利益	**214**	△17	△7%	**204**	10	
EPS（円）	**85.4**	△6.6	—	**81.4**	4.0	
EBITDA	**509**	5	1%	**509**	—	
ROIC（%）	**5.3%**	△1.1pt	—	**5.1%**	0.2pt	
ROE（%）	**7.4%**	△1.2pt	—	**7.0%**	0.4pt	

想定為替レート	26/12通期	前回想定からの増減	26/3通期
米ドル／円	159.00	—	149.71
ユーロ／円	184.00	—	169.00
バーツ／円	4.70	—	4.56

※1月～12月までの期中平均で算出

システム障害によるマイナス影響（単位：億円）
（）内は前回想定からの増減

	グループ合計	持株	食品事業	低温物流事業
売上高	**△40**（＋10）	—	△10（＋10）	△30
営業利益	**△9**（△1）	△2 ※	△3（△1）	△4
特別損益	**△16**（△6）	△16 ※（△6）	—	—

※システム障害 対応費用

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

- それでは通期業績予想の説明に入ります。
- 売上高、営業利益ともに第１四半期に発表した計画から変更せず、売上高6,185億円、営業利益300億円の達成を目指します。
- 一方、当期純利益は、政策保有株式の売却を推進した結果、前回計画から10億円上方修正し、214億円を見込みます。
- ここで、システム障害による影響額について補足します。
- 売上高は、食品事業での影響が10億円縮小し、マイナス40億円を見込みます。
- 営業利益は、食品事業でマイナス1億円が上乗せとなりマイナス9億円となります。
- さらに、特別損失については、障害発生時に緊急対応として発生した金額を精査した結果、前回から6億円増加し、16億円を見込みます。

食品事業｜2026年12月期 業績予想　国内9か月変則決算

● **価格改定効果の刈取りと最需要期への対応により、営業利益計画145億円を目指す**

（単位：億円）

		通期					
		計画	前年同期間比		前回計画比		営業利益率
			増減	率	前回計画	増減	
食品	**売上高合計**	**3,501**	88	3%	3,501	―	
	国内	**2,724**	58	2%	2,724	―	
	家庭用冷凍食品	**840**	△12	△1%	840	―	
	業務用冷凍食品	**1,603**	66	4%	1,603	―	
	調理品	**1,150**	90	8%	1,150	―	
	素材品	**453**	△24	△5%	453	―	
	その他	**281**	4	1%	281	―	
	海外　※	**1,292**	160	14%	1,292	―	
	調整額	**△515**	△130	―	△515	―	
	営業利益合計	**145**	△15	△9%	145	―	4.1%
	国内	**96**	△7	△7%	96	―	3.5%
	海外	**50**	△6	△11%	50	―	3.9%
	調整額	**△1**	△2	―	△1	―	―

※本表の数字は事業内消去前の数字となり消去後の食品事業の海外売上高（P.21）は864億円

増収の内訳	通期計画		
	増収率	単価	数量
家庭用冷凍食品	0%	9%	△9%
業務用冷凍食品(調理品)	8%	6%	2%

想定為替レート	26/12通期	26/3通期
米ドル／円	159.00	149.71
バーツ／円	4.70	4.56

※26/12通期において前回想定からの変更は無し

【国内】

《売上高》

・**家庭用：**価格改定に伴う単価上昇が数量減の影響で相殺され**前期並み**

・**業務用：**大手ユーザー向けチキン商材の販売が引き続き好調に推移し**4%増収**

《営業利益》

・価格改定後の数量減影響の顕在化もあり**7%減益**

【海外】

《売上高》

・北米事業のアジアン冷食の拡大や水産品の販売好調の影響で**14%増収**

《営業利益》

・北米事業は引き続き増益を見込むが、第１四半期に拡大したタイ事業の減益影響をカバーしきれず**11%減益**

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

- 次に食品事業の通期業績予想となります。
- 売上高は3%増収の3,501億円、営業利益は価格改定効果の刈り取りや最需要期への対応により145億円を目指します。
- 国内は、業務用において大手ユーザー向けの販売が引き続き好調に推移することで２％の増収を見込みますが、営業利益では、価格改定後の数量減影響が顕在化してきたこともあり7%の減益を見込みます。
- 続いて海外です。
- 北米事業においてアジアン冷食の販売拡大や、ニチレイフーズUSAでの水産品の販売が好調に推移することで14%の増収を見込みます。
- 利益面では、北米事業は引き続き増益となりますが、第1四半期のタイチキン事業の為替影響や副産物の相場下落による減益影響をカバーしきれず11%の減益を見込みます。
- 次のページでは、営業利益の増減要因についてご説明します。

食品事業｜2026年12月期 営業利益の増減　国内9か月変則決算

（単位：億円）

	第1四半期実績	第2四半期実績	第3四半期見込	通期	前回通期計画比
前期 営業利益	**63**	**38**	**59**	**160**	―
増益要因	**13**	**41**	**52**	**106**	**△20**
増収効果	△3	2	4	**3**	△17
価格改定効果	16	39	48	**103**	△3
減益要因	**△38**	**△28**	**△55**	**△121**	**20**
為替影響による原材料・仕入コストの増減	△3	△1	△3	**△7**	―
原材料・仕入コストの増減（為替影響除く）	△10	△14	△17	**△41**	4
海外関係会社の業績影響額	△12	8	△2	**△6**	―
その他（※1）	△1	1	△3	**△3**	1
中東情勢影響	△2	△14	△19	**△35**	―
諸経費の増減	△10	△5	△11	**△26**	―
システム障害影響	―	△3	―	**△3**	△1
実現リスク（※2）	―	―	―	―	15
当期 営業利益	**38**	**51**	**56**	**145**	―

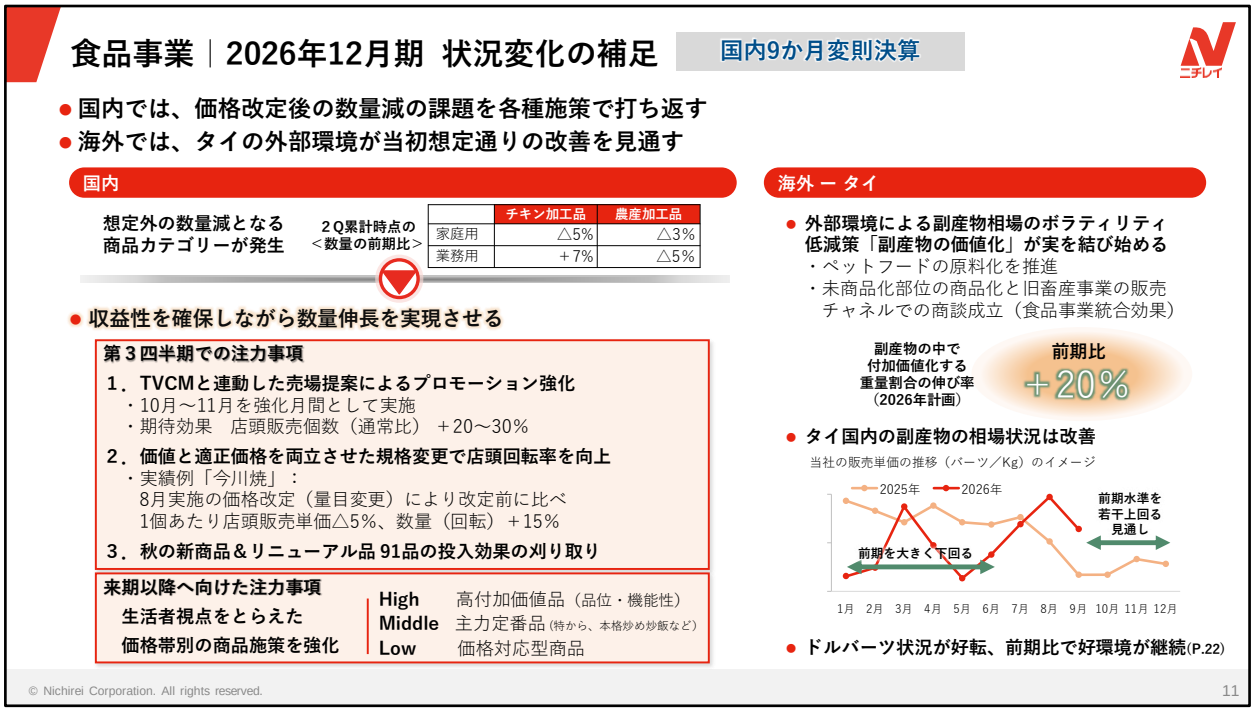
主な内容

- **増収効果　＋3億円（計画比△17億円）**
  ・生活者の節約志向の高まりにより価格改定後の数量減リスクが顕在化。新商品投入分が増収。
- **価格改定効果　＋103億円（計画比△3億円）**
  ・一部で交渉中も残るが概ね計画通りに改定済
- **海外関係会社の業績影響額　△6億円**
  ・タイチキン事業の改善により計画並みに進捗中
- **中東情勢影響　△35億円**
  ・包材価格や電力コストなどが高騰するも想定並み
- **システム障害影響　△3億円（計画比△1億円）**
  ・商品出荷停止による影響

※1：国内外に関係なく棚卸未実現利益の調整を含む　※2：増収効果、価格改定効果に関し、前回通期計画比で修正を加えた改定額の刈り取りに関するリスク

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

- 主な増減要因となる価格改定効果については、概ね計画通りに刈り取りができ103億円の増益効果となります。
- 一方で、生活者の節約志向の高まりにより価格改定後の数量減が顕在化したため実現リスクとしていた15億円を増収効果のマイナス影響としてとりこみました。
- 中東情勢影響については、依然として原油価格の高騰が継続し、包材価格や工場の電力コストの上昇が製品原価に大きく影響しています。そのため、第１四半期決算発表時の見込並みに推移するとみています。
- 次のページでは、第１四半期から第２四半期にかけての事業環境の変化についてのポイントをご説明します。



- 資料左側に記載のとおり、当初より一定の数量減は見込んでいたものの、特にチキン加工品や農産加工品で想定を上回る減少となりました。
- これらの課題に対しては、第３四半期から次年度にかけ、販促の強化に加え、各種施策の実行により収益性を確保しながら数量伸長を目指します。
- 注力事項の1つ目ですが、販売プロモーションでは、テレビコマーシャルと連動した売り場の提案を強化します。
- 2つ目、これまで課題であったスナック類の今川焼は量目変更や適切なプライシングにより店頭での回転率が大きく改善しました。課題商品カテゴリについても同様な施策に取り組んでいきます。
- 3つ目、この秋の新商品投入においても、節約志向の高まりの中でより手に取っていただきやすくなるよう、商品価値と適正価格を両立させた丁寧な商品設計を実施しました。
- また、今後も継続が見込まれるコストプッシュ型インフレ下においては、生活者視点をしっかりと捉えたメリハリのある施策が重要と考えています。
- 下段の来期に向けた注力事項としては、主力の定番品を核としながらも、専門店の味を再現した付加価値の高いから揚げや、大容量で手に取りやすい価格帯のチャーハンなど、価格帯別での商品施策を強化します。
- 次に右側の海外事業ですが課題となっていたタイのチキン事業における外部環境は、第２四半期では、低迷していた副産物相場が改善し、ドルバーツの為替影響も前期比で好転しました。
- また、ボラティリティの低減策においても、食品統合による販売チャネルの拡大など、期待していたシナジー効果が形として表れてきました。
- 副産物の更なる価値化や為替変動リスクへの対策など、外部環境に左右されない構造を作り上げられるよう、引き続き経営課題の重要なテーマとして注視していきます。

低温物流事業｜2026年12月期 業績予想　国内9か月変則決算

● **最需要期での着実な取り込みとサーチャージ収受により、営業利益166億円達成を見込む**

（単位：億円）

		通期					
		計画	前年同期間比		前回計画比		営業利益率
			増減	率	前回計画	増減	
低温物流	売上高合計	**2,790**	289	12%	2,790	－	
	国内事業	**1,590**	71	5%	1,590	－	
	保管	**568**	29	5%	568	－	
	輸配送	**293**	15	5%	293	－	
	リテール	**506**	13	3%	506	－	
	3PL	**223**	13	6%	223	－	
	海外事業	**1,148**	222	24%	1,148	－	
	その他・共通	**52**	△4	△8%	52	－	
	営業利益合計	**166**	6	4%	166	－	5.9%
	国内事業	**149**	3	2%	149	－	9.4%
	海外事業	**37**	7	22%	37	－	3.2%
	その他・共通	**△20**	△3	－	△20	－	－

想定為替レート	26/12通期※	26/3通期
ユーロ／円	184.00	169.00
バーツ／円	4.70	4.56

※26/12通期において前回想定からの変更は無し

【国内】
《売上高》
・各セグメントで最需要期に集荷を着実に進めることで**5%増収**

《営業利益》
・システム障害や電力コスト高騰影響を、最需要期での集荷拡大やサーチャージ収受などで吸収し**2%増益**

【海外】
《売上高》
・欧州の通関輸配送事業の伸長や、円安による為替換算影響もあり**24%増収**

《営業利益》
・年末に向け集荷獲得に注力し**22%増益**

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

- 続いて、低温物流事業の通期業績予想についてご説明します。
- こちらも通期計画は変更せず、売上高2,790億円、営業利益166億円の達成を見込みます。
- 国内では、最需要期となる年末において各事業で集荷を着実に進め5%の増収を見込みます。
- 営業利益は、システム障害および電力コスト上昇の影響があるものの、着実な集荷の獲得とサーチャージの収受などで影響を吸収し2%の増益を見込みます。
- 続いて海外事業です。
- 売上高は、欧州における通関・輸配送事業の伸長に加えて円安による為替換算の影響もあり、24%の増収となります。
- 営業利益についても年末に向けた集荷獲得に注力し、22%の増益を見込みます。

低温物流事業｜2026年12月期 営業利益の増減

国内9か月変則決算

（単位：億円）

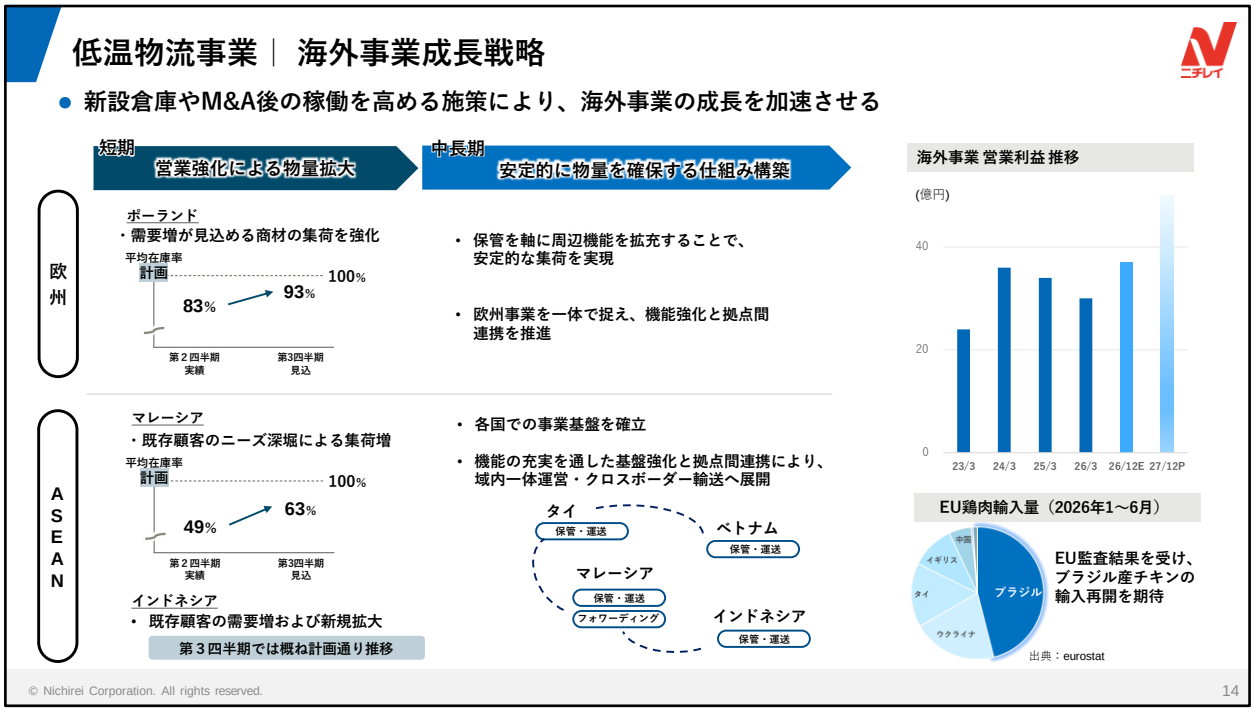
	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 見込	通期	前回通期 計画比
前期 営業利益	**51**	**52**	**60**	**160**	—
増益要因	**7**	**7**	**15**	**29**	—
国内事業の増収効果	2	3	5	10	—
適正料金収受	2	3	7	12	—
海外	3	1	3	7	—
減益要因	**△7**	**△7**	**△9**	**△23**	—
中東情勢影響	△1	△1	△1	△3	—
システム障害影響	—	△4	—	△4	—
コスト増（外部委託費）	△3	△1	△5	△9	—
コスト増（エネルギー）	△1	△1	△1	△3	—
その他	△2	0	△2	△4	—
当期 営業利益	**51**	**52**	**66**	**166**	—

主な内容

- **適正料金収受　＋12億円**
  ・サーチャージ収受の期ズレ影響は第3四半期で吸収
- **海外　＋7億円**
  ・ポーランド・タイで前期に新設した冷蔵倉庫での物量拡大や、マレーシア・インドネシアでの買収効果発現で伸長
- **中東情勢影響　△3億円**
  ・国内事業における電力コストの上昇
- **システム障害影響　△4億円**
  ・冷蔵倉庫の入出庫業務停止による影響額

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

- 続いて、低温物流事業の営業利益の増減についてご説明します。
- 適正料金の収受については、電力コストの上昇に対してサーチャージを適用し、コスト増の吸収を進めています。国内では、一時的な期ズレによる影響が生じていましたが、第3四半期には解消できる計画です。
- 海外事業では、通期で7億円の増益を計画しています。ポーランドおよびタイで前期に新設した冷蔵倉庫の取り扱い物量の拡大に加え、マレーシアおよびインドネシアにおける買収効果の発現により、計画の達成を目指します。
- 一方、減益要因としては、中東情勢の影響による電力コストの上昇を3億円織り込んでいます。このうち約2億円をサーチャージで吸収することで、実質的なマイナス影響額は約1億円となる想定です。
- システム障害については、冷蔵倉庫の入出庫業務の停止に伴う機会損失として、4億円の減益影響が第２四半期に発生しました。
- 今後は、コスト上昇に対する適正料金の収受を着実に進めるとともに、年末の最需要期を確実に捉え、通期計画の達成につなげていきます。



- 最後に、海外事業の成長戦略についてですが、新設倉庫およびM&A後の事業の稼働を高める施策を進め、足元の収益拡大と中長期的な競争力の強化を図っていきます。
- まず短期施策として、営業強化による物量拡大を進めます。
- ポーランドでは、既存顧客のニーズをさらに深掘りするとともに、今後、需要拡大が期待される商材の集荷を強化します。
- 続いてASEAN、マレーシアでは、既存顧客の潜在ニーズを捉え、物量拡大を進めています。
- インドネシアについても、既存顧客との取引量の拡大に加え、新規顧客の開拓を進めております。
- 次に、中長期の取り組みですが、安定的に物量を確保できる事業基盤の構築を進めていきます。保管を軸として周辺機能を拡充することで差別化を図り、競争優位性と参入障壁を高めていきます。
- 具体的には、欧州を一体で捉えた上で最適な機能・拠点連携を推進していき、各拠点の連携による事業間シナジーを創出します。
- ASEANでは、新設・M&A後の拠点も多いことから、まずは各国の事業基盤を着実に強化します。そのうえで、中長期的には各国の機能をつなぎ、ASEAN一体でサービスを提供できる体制へと進化させます。拠点間連携とクロスボーダー輸送を拡大することで、地域全体での競争力と収益力を高めていきます。
- こうした取り組みを通じ、右側の棒グラフにお示ししている通り、海外事業の営業利益は、欧州での安定的な成長やASEANの利益貢献を受け、今後安定的に伸長していく計画です。

資本コストや株価を意識した経営

- **資本コストや株価を意識した経営に向け、バランスシートマネジメントの強化を推進**
- **資本効率向上のため、保有する固定資産の一部を売却する**

対象資産	✓**非中核資産の一部の売却を決定** ✓物件の収益性、時価評価額、売却可能性などを勘案し対象を抽出 ✓売却の規模は**300億円以上**を想定
概要	✓具体的な売却先、売却金額、売却時期については未定 ✓**2027年度以降の売却を進める** ✓固定資産売却の詳細や業績への影響については確定次第の開示とする

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

- 続いて、資本コストや株価を意識した経営についてご説明します。
- 当社では昨今、資本コストと株価を意識した経営に向けバランスシートのマネジメント強化に関する議論を重ねてきました。
- この度、その一環として資本効率向上を目的とした固定資産の一部売却について意思決定しました。
- 対象となる資産は、事業用として利用していない土地や建物などの非中核資産の一部です。物件ごとの収益性や時価評価額、売却可能性などを勘案し、売却を進めていく方針を決定しました。
- その規模感は300億円以上となる想定で、2027年度以降の売却を進めますが、具体的な詳細については決まり次第改めての開示とさせていただきます。

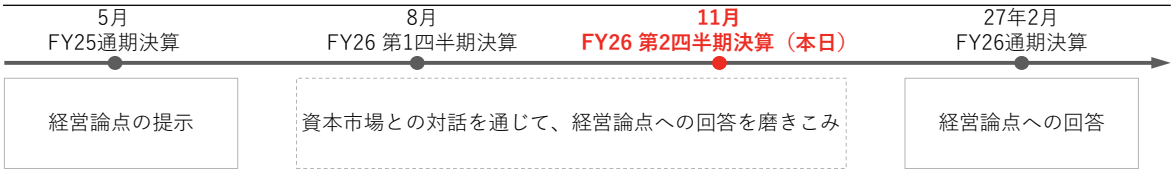
3. 5つの経営論点

新社長として向き合う経営の重要論点

26年3月期 期末決算説明会資料再掲

- **新社長として「5つの経営論点」に向き合うことで株主価値の最大化を目指す**
- **四半期決算の場などを活用して資本市場との対話を行い、年明けを目途に論点に対する回答を提示**

#	経営論点	詳細
1	最上位経営目標の再定義	• N-FIT2035で掲げる目標の実現に向けて、何を最上位KPIに位置付けるか
2	事業ポートフォリオ戦略の構築	• グループの企業価値最大化及び成長加速に向けて、従来の加工食品・低温物流事業へのリソース均等配分は最適か • 両事業のポートフォリオ上の役割をどのように定義するか
3	成長ドライバーの特定	• どの市場（地域・カテゴリ）を次なる成長ドライバーと位置付けるか
4	戦い方の転換	• 従来のオーガニック中心の成長戦略をどのように転換すべきか 本日のご報告
5	磨くべき強みと提供価値	• 持続的成長実現のために、当社が磨くべきコア・ケイパビリティと顧客への提供価値は何か



© Nichirei Corporation. All rights reserved.

- 最後に5つの経営論点の進捗についてご説明いたします。
- 26年3月期、期末決算では「企業価値・株主価値の最大化」を実現する上で、新社長として向き合うべき5つの論点を設定しました。
- つづく、本年度の第１四半期決算では、論点①経営指標の再定義としてTSRを経営指標として設定すること、論点②事業ポートフォリオの構築については、食品と低温物流の2事業に国内と海外の軸を加えた4象限でポートフォリオを検討することを提示しました。
- 本日は、事業ポートフォリオ戦略の構築と、成長ドライバーの特定、戦い方の転換について進捗をご報告します。

N-FIT2035実現に向けた成長戦略方針

●4象限ごとに戦う市場を定め、自社の競争優位性を活かして企業価値向上を実現

論点②ポートフォリオ	論点③④戦う市場と競争優位性	期末決算までの残論点
国内食品 収益基盤強化	業界リーダーとしての**商品開発力とブランド力**を活かせる商品カテゴリへの集中とあわせ、**成長性・収益性の低い製品カテゴリからの撤退**を通じて、収益基盤を強化	• ポートフォリオ上の役割の明確化 • 資本投下の方針 • 各事業戦略の具体化 • 積極的な資本投下に向けた、ガバナンス・投資規律の強化方針
海外食品 北米市場の強化	**生販一体モデル**の展開による北米既存事業の収益改善に加え、**隣接するフードカテゴリ・チャネル**に事業領域を拡張。事業ポートフォリオ入替により**北米市場**でのプレゼンスを強化	
国内物流 プラットフォーム強化・展開	顧客の経営課題解決に貢献する**付加価値サービス**の展開、**冷食プラットフォーム**強化とSCM機能の高度化により、**規模拡大と資本効率改善**を両立	
海外物流 事業基盤の確立とグループ連携強化	欧州は**グループ一体運営**で拠点間連携やクロスセルを強化、ASEANは各国の**事業基盤の確立**と域内・域外連携により収益性・資本効率を向上	

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

- それでは、左の一番上、国内食品からご説明します。業界リーダーとしての自社の強みである商品企画力とブランド力を活かせる商品カテゴリーに経営リソースを集中します。
- あわせて、成長性・収益性の低い製品カテゴリーからの撤退を通じて、収益基盤の強化を図ります。
- 2つ目、海外食品ですが、国内で確立している生販一体モデルを、北米工場稼働を機に展開しInnovAsian社の収益改善を図るとともに、アジアンフードだけでなく隣接するフードカテゴリ、BtoBチャネルへと事業領域の拡張をM&Aも含め検討します。
- あわせて、収益性が低い地域・事業については見極めたうえで、ポートフォリオの転換を図ることを通じ、北米でのプレゼンス強化を図ります。
- 続いて3つ目、国内物流です。
- お客様が「サプライチェーンの付加価値ドライバー」として物流を経営課題に捉えるようになってきているといった変化を踏まえ、こういった課題へのソリューションとなる付加価値サービスの展開や、冷食プラットフォーム強化とSCM機能の高度化により、規模拡大と資本効率改善を両立します。
- また、資本効率・収益性が確保できるエリアをしっかりと見極めたうえで設備投資を行い、効率的なネットワーク拡大を実現していきます。
- これらを通じて、事業規模の拡大と資本効率改善を両立できるビジネスモデルへの進化の実現を目指します。
- 最後に、海外物流です。
- 欧州では、各地域のアセットを事業としてつなぎ、グループ一体運営による拠点間連携やクロスセルを強化します。またASEANでは、まずは事業基盤の確立を優先し、域内・域外との連携を強化することで収益性と資本効率を高めます。
- 詳細な事業戦略を始めとした残りの論点については、期末決算にてご報告します。

- 足元では、年末の最需要期を確実に捉え、まずは今期計画の達成に全力で取り組んでまいります。同時にその先を見据え、「戦う市場」と「競争優位性」をより明確にし、事業の成長と資本効率の向上を両立させていきます。
- 今期の着実な計画達成と、その先の持続的な企業価値向上に向けスピード感を持って進めてまいります。本日はありがとうございました。

4. Appendix

貸借対照表の増減要因

（単位：億円）

	2026年3月期 期末	2026年12月期 第２四半期	増減	
資産の部				
流動資産	2,301	2,524	223	①
固定資産	3,271	3,382	111	②
資産合計	5,572	5,906	334	
流動負債	1,493	1,759	266	③
固定負債	1,035	1,077	42	④
負債合計	2,528	2,837	309	
純資産合計	3,044	3,070	25	
（うち自己資本）	2,863	2,864	1	
有利子負債	1,248	1,552	304	
（うちリース債務除く）	1,108	1,421	313	

	2026年3月期 第２四半期累計	2026年12月期 第２四半期累計	増減	
設備投資額	164	212	47	⑤
（うちリース資産除く）	144	202	59	
減価償却費	122	141	18	
（うちリース資産除く）	104	124	20	

（注）今期は変則決算期に伴い、2026年3月期についても国内4月～9月（6か月）、海外1月～9月（9か月）の実績数値を使用

【主な増減要因】

①現金及び預金　＋121億円

②無形固定資産　+79億円（うち、のれん　63億円）

③短期借入金等の有利子負債　＋244億円

④長期借入金　＋68億円

【2026年度の設備投資の主な実績】

⑤レクサム冷蔵倉庫増設（イギリス）35億円



レクサム物流センター増設後の外観
（左：増設棟、右：既存棟）

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

食品事業｜海外事業の実績と計画

【集計期間】2026年3月期：2025年1月～12月、2026年12月期：2026年1月～12月

海外売上高実績と計画

（単位：億円）

		2026年12月期															
		第１四半期（1～3月）			第１四半期（4～6月）			第２四半期（7～9月）			第２四半期累計			第３四半期（10～12月）			通期		
		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		計画	前期比		計画	前期比	
			増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
売上高	北米	114	8	8%	109	12	12%	119	6	5%	342	26	8%	118	11	10%	460	37	9%
	GFPTニチレイ	66	△4	△5%	66	2	3%	70	13	22%	202	11	6%	71	5	8%	273	17	6%
	その他	28	4	19%	33	2	6%	34	4	15%	94	11	13%	37	2	5%	131	12	10%
	合計	**208**	**9**	**5%**	**208**	**16**	**8%**	**223**	**23**	**11%**	**639**	**48**	**8%**	**225**	**18**	**9%**	**864**	**66**	**8%**

※北米にはイノバジアン事業の他、北米で展開する全ての食品事業の数字を含める
※本表の数字は地域間消去後の数字となり「エリア・セグメント別売上高・営業利益」で開示する数字と異なる
※今期の第１四半期（４～６月）以降より、日本から海外への輸出売上高も含めた数字を海外売上高として開示している

イノバジアン事業 売上高・営業利益

		2026年12月期															
		第１四半期（1～3月）			第１四半期（4～6月）			第２四半期（7～9月）			第２四半期累計			第３四半期（10～12月）			通期		
		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		計画	前期比		計画	前期比	
			増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
売上高	連結通貨（億円）	99	△5	△5%	90	3	4%	102	9	9%	291	7	3%	106	16	17%	397	23	6%
	現地通貨（百万USD）	63	△5	△7%	56	△4	△6%	64	1	1%	184	△8	△4%	66	8	13%	249	△0	△0%
営業利益	連結通貨（億円）	7	3	79%	4	2	176%	5	0	10%	16	6	59%	5	0	8%	21	6	42%
	現地通貨（百万USD）	4.4	1.9	74%	2.3	1.3	137%	3.3	0.1	2%	10.0	3.3	48%	3.3	0.1	3%	13.3	3.3	34%
営業利益率（連結通貨）		6.9%			4.1%			5.2%			5.4%			5.0%			5.3%		
為替レート（米ドル／円）											158.54						159.00		

※本表の数字は地域間消去後の数字となり「エリア・セグメント別売上高／国内外別営業利益」で開示する数字と異なる

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

食品事業｜補足情報

SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比

市場	26/3期１Q	26/3期２Q	26/3期３Q	26/3期４Q	26/3期累計	26/12期１Q	26/12期２Q
全体	106%	103%	104%	101%	104%	102%	101%
畜肉フライ	104%	104%	101%	100%	102%	98%	101%
ピラフご飯類	116%	109%	108%	101%	109%	96%	92%
おにぎり	105%	102%	104%	106%	104%	104%	102%
スナック類	109%	98%	100%	97%	101%	95%	101%
ハンバーグ	99%	96%	97%	97%	97%	96%	97%

出典：インテージSCI（冷凍調理　100人当たり購入金額の前年四半期比の推移（70代まで））。購入ルート＝生協店舗・店舗以外を含む。（宅配等含む）

2026年秋季の新商品・リニューアル商品

リリース：
https://www.nichireifoods.co.jp/news/2026/info_id1000092/



「本格炒め炒飯®」 &「特から®」
（トレイ入り）



ニチレイ 鶏から

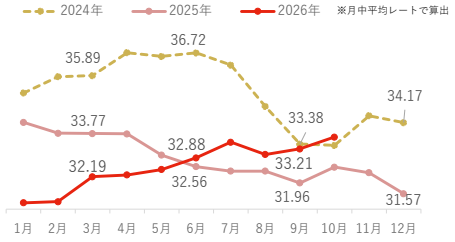


麺と米 ぶっかけうどん＆カツ丼
※新シリーズのワンプレート商品


アマニ鶏のチキンカツ


えびごろっと青菜かき揚げ50

ドルバーツ推移



© Nichirei Corporation. All rights reserved.

低温物流事業｜海外事業の実績と計画

【集計期間】2026年3月期：2025年1月～12月、2026年12月期：2026年1月～12月

海外売上高

（単位：億円）

		2026年12月期																	
		第１四半期（1～3月）			第１四半期（4～6月）			第２四半期（7～9月）			第２四半期累計			第３四半期（10～12月）			通期		
		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		計画	前期比		計画	前期比	
			増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
売上高	欧州	239	52	28%	264	57	27%	274	54	25%	777	163	27%	226	5	2%	1,003	168	20%
	東アジア	12	0	3%	15	1	11%	16	1	6%	44	3	7%	14	△1	△8%	57	1	2%
	東南アジア	15	8	119%	18	12	191%	25	16	167%	58	35	159%	30	18	149%	88	53	151%
	合計	**267**	**61**	**29%**	**297**	**70**	**31%**	**315**	**71**	**29%**	**879**	**201**	**30%**	**269**	**21**	**8%**	**1,148**	**222**	**24%**

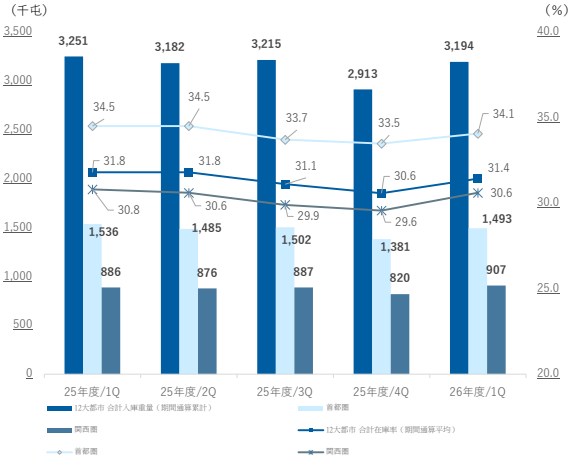
欧州売上高

		2026年12月期																	
		第１四半期（1～3月）			第１四半期（4～6月）			第２四半期（7～9月）			第２四半期累計			第３四半期（10～12月）			通期		
		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		計画	前期比		計画	前期比	
			増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
連結通貨（億円）	保管	99	22	29%	109	27	33%	109	19	21%	317	68	27%	97	7	7%	414	75	22%
	通関・輸配送	139	29	26%	156	31	24%	165	35	27%	461	95	26%	128	△2	△1%	589	93	19%
	合計	**239**	**52**	**28%**	**264**	**57**	**27%**	**274**	**54**	**25%**	**777**	**163**	**27%**	**226**	**5**	**2%**	**1,003**	**168**	**20%**
現地通貨（百万ユーロ）	保管	54	6	12%	59	9	18%	59	7	13%	172	22	15%	53	2	5%	225	24	12%
	通関・輸配送	76	7	10%	84	8	10%	90	15	19%	250	29	13%	70	△3	△4%	320	27	9%
	合計	**130**	**13**	**11%**	**143**	**17**	**13%**	**149**	**21**	**17%**	**422**	**51**	**14%**	**123**	**△0**	**△0%**	**545**	**51**	**10%**

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

低温物流事業｜補足情報

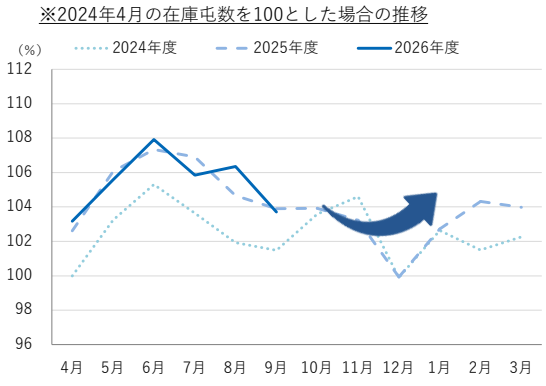
業界の冷蔵倉庫稼働状況



出典：一般社団法人 日本冷蔵倉庫協会「主要12都市受寄物庫腹利用状況一覧表」を当社で加工

(注)26年度の第2四半期については、会員企業のシステム障害の影響によりデータ非反映

当社の１２大都市 在庫屯数推移



© Nichirei Corporation. All rights reserved.

2026年12月期年間業績・計画一覧

（単位：億円）

	第１四半期			第２四半期			第３四半期			通期		
	実績	前期比		実績	前期比		計画	前期比		計画	前期比	
		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
食品	1,247	23	2%	1,074	37	4%	1,181	28	2%	3,501	88	3%
国内	848	3	0%	864	9	1%	1,011	46	5%	2,724	58	2%
家庭用冷凍食品	274	3	1%	276	△ 0	△ 0%	290	△14	△5%	840	△12	△1%
業務用冷凍食品	480	△5	△1%	488	8	2%	635	63	11%	1,603	66	4%
調理品	359	13	4%	376	29	8%	415	48	13%	1,150	90	8%
素材品	121	△18	△13%	112	△ 21	△ 16%	219	15	7%	453	△24	△5%
その他	95	5	5%	100	2	2%	87	△3	△3%	281	4	1%
海外	624	65	12%	338	59	21%	330	36	12%	1,292	160	14%
調整額	△225	△45	―	△128	△ 31	―	△161	△54	―	△515	△130	―
低温物流	1,078	152	16%	857	66	8%	855	71	9%	2,790	289	12%
国内事業	509	22	4%	529	19	4%	552	30	6%	1,590	71	5%
保管	179	7	4%	187	7	4%	201	15	8%	568	29	5%
輸配送	94	4	4%	96	0	1%	103	11	12%	293	15	5%
リテール	166	7	5%	170	6	3%	170	0	0%	506	13	3%
3PL	71	3	5%	75	6	9%	77	4	6%	223	13	6%
海外事業	564	131	30%	315	71	29%	269	21	9%	1,148	222	24%
その他・共通	5	△0	△1%	13	△23	△65%	34	19	124%	52	△4	△8%
不動産	13	1	4%	13	1	6%	12	△0	△4%	38	1	2%
その他	11	△3	△20%	9	△1	△12%	19	3	16%	39	△1	△4%
調整額	△58	△3	―	△70	△14	―	△55	1	―	△183	△16	―
売上高合計	2,290	170	8%	1,883	88	5%	2,011	102	5%	6,185	360	6%
（海外売上高合計）	982	156	19%	538	92	21%	529	73	16%	2,049	322	19%
食品	38	△25	△40%	51	13	35%	56	△3	△5%	145	△15	△9%
国内	16	△12	△44%	33	6	23%	47	△1	△2%	96	△7	△7%
海外	21	△13	△39%	20	9	92%	9	△2	△20%	50	△6	△11%
消去額	1	1	121%	△2	△2	―	△0	△0	―	△1	△2	―
低温物流	51	0	1%	52	△0	△0%	62	6	10%	166	6	4%
国内事業	39	△2	△6%	46	△2	△5%	64	7	13%	149	3	2%
海外事業	19	3	16%	11	1	15%	7	3	60%	37	7	22%
その他・共通	△7	0	―	△4	1	―	△9	△4	―	△20	△3	―
不動産	5	0	1%	5	1	18%	5	△0	△4%	15	1	5%
その他	△2	△2	―	△1	△1	―	3	△0	△12%	1	△3	△73%
調整額	△10	△3	―	△8	△6	―	△9	△5	―	△27	△13	―
営業利益合計	82	△29	△26%	100	8	8%	118	△3	△2%	300	△24	△8%
経常利益	86	△29	△26%	98	6	7%	126	△2	△1%	309	△25	△7%
親会社株主に帰属する中間純利益ないし当期純利益	69	0	0%	66	△17	△20%	79	△0	△0%	214	△17	△7%

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

エリア・セグメント別売上高・営業利益 第2四半期累計実績

2026年12月期 第2四半期累計　【日本：2026年4月～9月、海外：2026年1月～9月】

※（）内は前年同期間比、ptはポイント　（単位：億円）

	売上高									営業利益						
	日本	日本以外合計	北米	欧州	東南アジア	東アジア	その他	地域間消去等	合計	日本	日本以外	地域間消去等	合計	営業利益率 日本	営業利益率 日本以外	営業利益率 合計
食品	1,713	962	346	―	523	60	32	△ 354	2,320	49	41	△ 1	89	2.9%	4.2%	3.8%
	(12)	(124)	(27)	―	(90)	(△1)	(8)	(△75)	(60)	(△6)	(△4)	(△2)	(△12)	(△0.4pt)	(△1.1pt)	(△0.6pt)
低温物流	1,038	879	―	777	58	44	―	18	1,935	85	30	△ 11	104	8.2%	3.4%	5.4%
	(41)	(201)	―	(163)	(35)	(3)	―	(△23)	(219)	(△5)	(4)	(1)	(0)	(△0.8pt)	(△0.4pt)	(△0.7pt)
不動産・その他	42	4	3	―	1	―	―	△ 0	46	9	△ 1	0	8	21.7%	―	17.5%
	(△5)	(1)	(△0)	―	(1)	―	―	(1)	(△3)	(△3)	(1)	(1)	(△1)	(△3.4pt)	―	(△1.8pt)
調整額	△ 125	△ 2	―	―	△ 2	―	―	△ 1	△ 128	△ 18	―	0	△ 18	―	―	―
	(△16)	(△0)	―	―	(△0)	(0)	―	(△1)	(△17)	(△9)	―	(△0)	(△9)	―	―	―
合計	2,668	1,843	349	777	579	105	32	△ 337	4,174	125	69	△ 12	182	4.7%	3.8%	4.4%
	(31)	(326)	(27)	(163)	(126)	(2)	(8)	(△98)	(258)	(△22)	(1)	(△0)	(△22)	(△0.9pt)	(△0.8pt)	(△0.8pt)

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

2026年12月期参考数値（国内1～12月、海外1～12月）

（単位：億円）

				第１四半期A 国内　2026年1月～3月 海外　2026年１月～3月			第１四半期B 国内　2026年４月～６月 海外　2026年4月～６月			第２四半期 国内・海外 2026年７月～９月			第３四半期 国内・海外 2026年10月～12月			通期		
				実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		計画	前期比		計画	前期比	
					増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
	食品			1,062	41	4%	1,039	14	1%	1,074	37	4%	1,181	28	2%	4,355	120	3%
		国内		861	35	4%	848	3	0%	864	9	1%	1,011	46	5%	3,585	93	3%
			家庭用冷凍食品	271	6	2%	274	3	1%	276	△0	△0%	290	0	0%	1,111	9	1%
			業務用冷凍食品	505	27	6%	480	△5	△1%	488	8	2%	635	52	9%	2,108	82	4%
			調理品	364	55	18%	359	13	4%	376	29	8%	415	34	9%	1,514	131	9%
			素材品	141	△28	△16%	121	△18	△13%	112	△21	△16%	219	18	9%	594	△49	△8%
			その他	85	2	3%	95	5	5%	100	2	2%	87	△6	△6%	366	3	1%
		海外		308	20	7%	316	45	17%	338	59	21%	330	36	12%	1,292	160	14%
		消去額		△107	△15	―	△125	△33	―	△128	△31	―	△161	△54	―	△522	△133	―
	低温物流			775	94	14%	813	93	13%	857	66	8%	855	71	9%	3,299	323	11%
		国内事業		471	20	5%	509	22	4%	529	19	4%	552	30	6%	2,061	92	5%
			保管	165	7	5%	179	7	4%	187	7	4%	201	15	8%	733	37	5%
			輸配送	81	2	2%	94	4	4%	96	0	1%	103	11	12%	374	17	5%
			リテール	158	8	6%	166	7	5%	170	6	3%	170	0	0%	664	22	3%
			3PL	67	3	5%	71	3	5%	75	6	9%	77	4	6%	290	17	6%
		海外事業		266	60	29%	298	71	31%	315	71	29%	269	21	9%	1,148	222	24%
		その他・共通		38	14	58%	5	△0	△1%	13	△23	△65%	34	19	124%	90	9	12%
	不動産			13	△1	△5%	13	1	4%	13	1	6%	12	△0	△4%	51	△0	△0%
	その他			13	2	13%	10	△3	△24%	9	△1	△12%	19	3	16%	51	△0	△0%
	調整額			△52	0	―	△58	△3	―	△70	△14	―	△55	1	―	△234	△16	―
売上高合計				1,811	136	8%	1,816	101	6%	1,883	88	5%	2,011	102	5%	7,522	427	6%
（海外売上高合計）				474	69	17%	508	87	21%	538	92	21%	529	71	16%	2,049	320	18%
	食品			50	15	44%	26	△18	△41%	51	13	35%	56	△3	△5%	184	7	4%
		国内		38	23	145%	16	△12	△44%	33	6	23%	47	△1	△2%	134	16	13%
		海外		12	△7	△36%	9	△7	△43%	20	9	92%	9	△2	△17%	50	△6	△11%
		消去額		0	△0	―	1	1	―	△2	△2	―	△0	△0	―	△1	△2	―
	低温物流			36	7	24%	41	△3	△6%	52	△0	△0%	62	6	10%	192	10	5%
		国内事業		33	8	32%	39	△2	△6%	46	△2	△5%	64	7	13%	182	11	6%
		海外事業		9	2	32%	9	△0	△2%	11	1	15%	9	3	62%	37	7	22%
		その他・共通		△6	△3	―	△7	0	―	△4	1	―	△11	△5	―	△28	△7	―
	不動産			5	△0	△6%	5	0	1%	5	1	18%	5	△0	△4%	20	0	2%
	その他			△0	1	―	△1	△1	―	△1	△1	―	3	△0	―	2	△2	△42%
	調整額			△4	△1	―	△10	△3	―	△8	△6	―	△9	△5	―	△31	△14	―
営業利益合計				87	22	34%	61	△25	△29%	100	8	8%	118	△3	△2%	366	2	1%

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

ROICの推移

	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3	26/12E
グループ全体 ROIC（%）	**8.1**	**7.8**	**7.6**	**7.5**	**7.8**	**6.9**	**7.5**	**7.4**	**7.3**	**5.3**
NOPAT率（%）	3.7	3.7	3.6	3.9	4.1	3.5	3.9	3.9	4.2	3.7
使用資本回転率（回）	2.2	2.1	2.1	1.9	1.9	2.0	1.9	1.9	1.7	1.4
WACC（%）						4.0	4.0	4.0	4.5	4.5
食品										
簡易ROIC（%）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	**5.8**
税引後営業利益率（%）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.8
主要使用資本回転率（回）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.0
(旧)加工食品										
簡易ROIC（%）	**14.4**	**13.3**	**15.1**	**13.9**	**10.3**	**8.5**	**10.8**	**11.0**	**9.4**	—
税引後営業利益率（%）	4.6	4.5	4.9	5.3	4.0	3.5	4.1	4.2	3.7	—
主要使用資本回転率（回）	3.2	3.0	3.1	2.6	2.6	2.4	2.6	2.7	2.5	—
(旧)水産										
簡易ROIC（%）	**1.0**	**0.6**	**1.5**	**2.0**	**3.3**	**3.5**	**2.9**	**8.0**	**9.6**	—
税引後営業利益率（%）	0.3	0.2	0.5	0.6	1.0	1.0	0.7	1.7	1.9	—
主要使用資本回転率（回）	3.4	3.5	3.3	3.4	3.4	3.7	4.4	4.8	5.0	—
(旧)畜産										
簡易ROIC（%）	**16.3**	**16.8**	**13.6**	**21.5**	**20.2**	**13.8**	**12.4**	**21.9**	**17.2**	—
税引後営業利益率（%）	1.0	1.1	0.7	1.1	1.0	0.8	0.9	1.1	0.8	—
主要使用資本回転率（回）	16.4	15.1	19.1	20.0	20.1	17.9	14.1	19.8	21.6	—
低温物流										
簡易ROIC（%）	**7.0**	**7.1**	**7.2**	**7.8**	**7.7**	**7.7**	**7.2**	**6.5**	**6.7**	**5.2**
税引後営業利益率（%）	4.0	3.9	4.0	4.3	4.5	4.3	4.2	3.9	4.3	4.0
主要使用資本回転率（回）	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.8	1.7	1.7	1.6	1.3

※簡易ROIC=税引後営業利益÷主要使用資本（営業資金＋有形無形固定資産）
※26/12Eは、決算期変更により国内9か月の数値計画（国内：2026年4月～12月、海外：2026年1月～12月）

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

当資料取り扱いのご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみに全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
④新商品・新サービス開発の実現性
⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
⑦偶発事象の結果
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。

© Nichirei Corporation. All rights reserved.